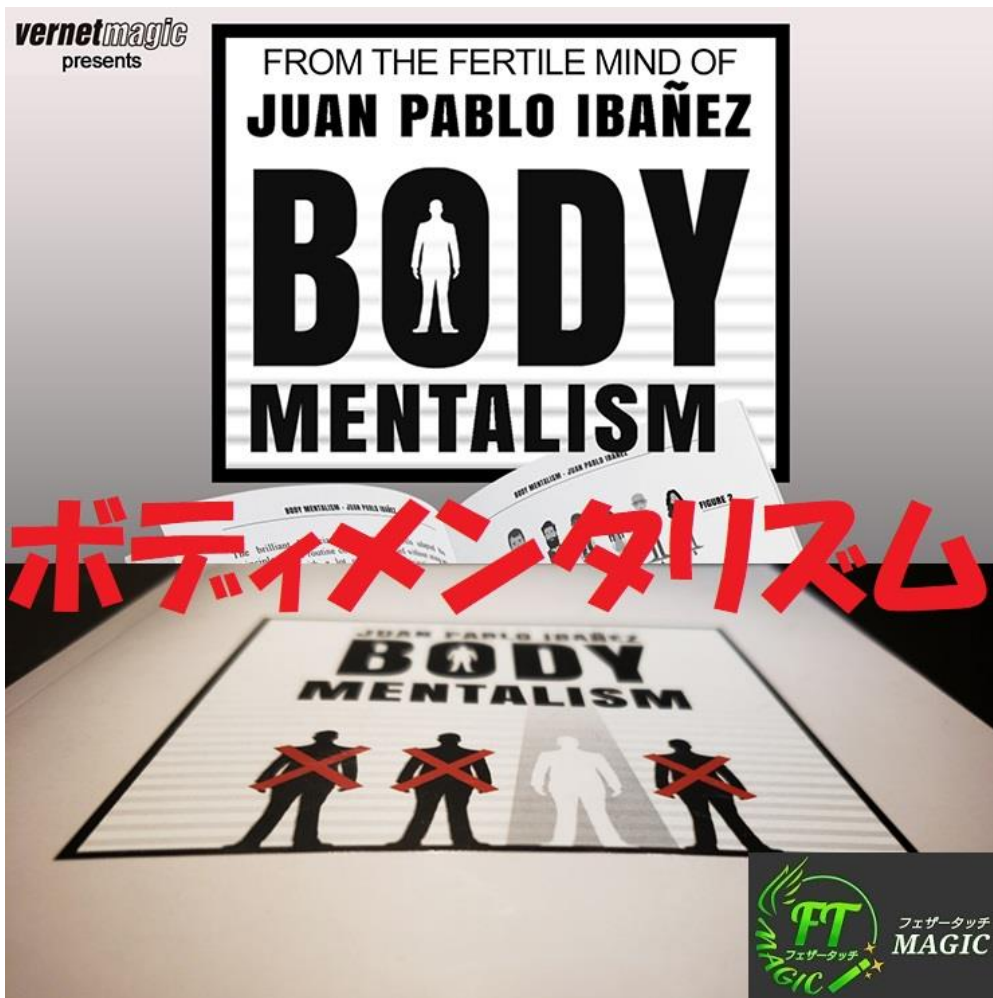


vernetmagic
presents

FROM THE FERTILE MIND OF
JUAN PABLO IBAÑEZ

BODY
MENTALISM

ボディメンタリズム



BODY MENTALISM

BY

JUAN PABLO IBANEZ

<日本語版>

「ボディ・メンタリズム」

道具不要、ギミック不要の実用的手順！

BODY MENTALISM

by

JUAN PABLO IBANEZ

Copyright ©2019 Vernet Magic, Juan Pablo Ibanez

Exclusive Japanese Edition

**THIS LIMITED EDITION PRINTED BY
FEATHER TOUCH MAGIC**

日本語版 Copyright © 2019 (有)フェザータッチ MAGIC

<目次>

【プロローグ】	-----	4
第1章 始めに【THE BEGINNING】	-----	5
【現象】	-----	5
【原点：ORIGINS】	-----	6
【基本原理】	-----	8
第2章 スリーステップ（THE THREE STEPS）	-----	11
【エニーカード・アット・エニナンバー（ACAAN）】	-----	11
【ブックテスト（BOOK TEST）】	-----	12
【ウソ発見器（LIE DETECTOR）】	-----	13
【丸めた紙（A CRUMPLED PAPER BALL）】	-----	14
第3章 最初のステップ（THE FIRST STEP）	-----	16
【エキボク（EQUIVOQUE）】	-----	16
【たった一つの質問（ONLY ONE QUESTION）】	-----	17
【ダブル・テキーラ（DOUBLE TEQUILA）】	-----	18
【思ったカード（THOUGHT OF CARD）】	-----	21
【二人の合計数（DOUBLE CARD TO NUMBER）】	-----	22
第4章 トリプル・テキーラ（TRIPLE TEQUILA）	-----	23
第5章 二人がウソ、二人が本当 （TWO LIE、TWO TELL THE TRUTH）		
【さらに複雑に（EVEN MORE IMBALANCED）】	-----	26
【「思ったカード」をさらに複雑に （EVEN MORE IMBALANCED WITH A THOUGHT OF CARD）】	---	28
第6章 MISCELLANY（いろいろなアイデア集）		
【5つの飲み物（FIVE DRINKS）】	-----	29
【ダイス（DIE）】	-----	31
【腕時計（WRISTWATCH）】	-----	31

【プロローグ】

この本のプロローグを書くのは、私にとってとても嬉しいことです。私は JUAN PABLO IBANEZ と 40 年以上の親交がありますが、間違いなく彼は私が知る中では、最も芸術的にも職業的にも成功したマジシャンであると思います。我々のマジックというジャンルの中で彼よりも効果を上げられる者を私は知りません。彼に出演を依頼するという事は成功を約束されることです。

マジシャンに禁物なことが 1 つあります：客を退屈させることです。JUAN PABLO はこの点を完全にクリアーしています。彼といると、絶え間ない笑いと娯楽性、そして驚きが同時に保証されます。

私は、彼がプライベートなパーティーやコーポレートショー、劇場、テレビで活躍し南アフリカで最も成功しているプロフェッショナルだからというだけでなく、世界で最もクリエイティブで生産的なマジシャンであるという点でも、彼を高く評価しています。

私の言葉を大げさだと思わないでください。JUAN PABLO は汲んでも尽きない泉であり、彼の創作したものはすべて素晴らしいものです。私は何回も彼の信じがたいマジックトリックやルーティンが作り出され、発展してゆく様を見てきました。彼の集中力はすごいです。その例を挙げれば、例えば私に彼があるトリックのアイデアのことで電話をしてきたとします。それについて検討して電話を置くと、5 分後にはまた電話がきて、もうその改良版について話し出すのです。それはいつも前よりも優れたもので、そうした新しいアイデアを知ることはまた楽しいことです。

しかし何よりも、彼は人間として素晴らしい人であることを言うておきましょう。

あなたは驚くべきメンタリズムのルーティンを集めた素晴らしい作品を手に入れています。それらは強力で、実用的かつ応用範囲の広いもので、道具もほとんど使わず、お客さんさえいれば演じられるものです。それらはまた何度も実戦で試され、一般客にもマジシャンに対してもとても効果的であることが確かめられています。

「BODY MENTALISM」は、本物の宝石です！

2019 年 6 月 MICHEL

第1章 始めに(THE BEGINNING)

「BODY MENTALISM」は人々に大きなインパクトを与える、実用的な応用範囲の広いメンタリズムルーティンです。どこでも何時でも演じられます。準備も必要なく、クローズアップやパーラー、ステージどこでも大丈夫です。ほとんど道具は使わずに、2~7人の客を相手に出来ます。使われている原理は応用範囲が広く、1つのエフェクトはもちろん、またいくつかのエフェクトを続けて次第にインパクトが盛り上がって行くような長いルーティンとすることも出来ます。「BODY MENTALISM」はとても実用的であり且ついろいろ使えるので、アマチュアとプロマジシャンどちらにとっても理想的なものと言えます。

【現象】

5人の客にステージに上がってもらい、メンタリストは1人に品物を渡します。メンタリストが後ろを向いている間に、品物を客の間で移動させて、最終的に誰かのポケットに入れて隠してもらいます。メンタリストは精神を集中し、誰が品物を隠しているのかを探ろうとします。メンタリストは客を1人、また1人とステージから下ろして客席に帰ってもらいます。そして客がステージ上に1人残るまで続けますが、その客が正しくメンタリストが渡した品物を持っているのです。

以上が基本の現象であり、そのやり方は応用無限です。

(いくつかの例)

- ・客を減らしながら、残っている客の間で品物をさらに移動してもらうことが出来ます。

- ・これは「LIE DETECTOR (ウソ発見器)」の手順としても演じられます。客は本当でもウソでも言えますし、途中で役割(正直者あるいはウソつき)を変えることも出来ます。しかしメンタリストは常に品物がどこにあるのか、そしてそれぞれの客が選んだ「役割」が何かを当てて見せます。

- ・品物が何回在り場所を変えられたか、そしてどの客が隠したかをメンタリストには判らないようでも、結局最後には必ず品物がどこにあるかを当ててしまうのです。

- ・もし品物として 1 組のデッキが使われると、信じられない予言、客の思ったカードの名前の開示、「ANY CARD AT ANY NUMBER」などのルーティンが行えます。
- ・品物として本を使えば、「BOOK TEST」も出来ます。
- ・腕時計も使えます。クライマックスでは客が選んだ時間を当ててしまいます。
- ・他のやり方としては、種類の違った飲み物を入れたグラスを使ったり、5 つの種類の種類違ったチェスの駒の有り場所を当ててしまいます。
- ・使う品物は丸めた紙玉でも良く、その場合は最後にステージに残った紙玉を隠していた客の「容姿」が中に書かれています。

以上のように、可能性は無限です！

【原点:ORIGINS】

—以下省略—

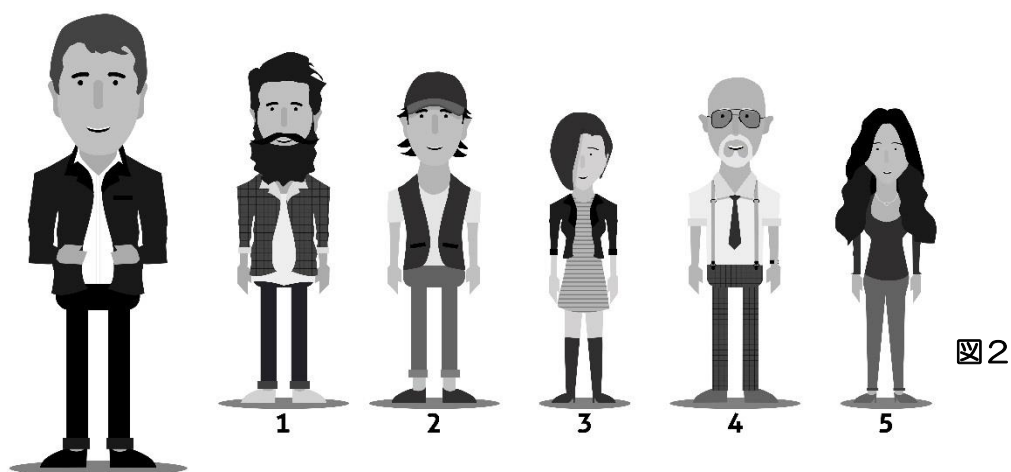
【基本的原理】

STEP 1 : 5 人の客にステージに来てもらい、そのうちの 1 人に品物を渡します。マジシャンが合図をしたら、品物を持っている客はそれを隣に立っている客に渡すように、と説明されます。

—以下省略—

マジシャンは後ろに並んでいる5人の客と共に観客の方を向きます。

そして観客に、5人の客が正しく行動するように注意して欲しいと頼みます。



客に一度品物を移動させます。客がそれをするのに十分な間を取ります。そしてもう1回移動させます。さらに3回、4回と移動させて、最後の客に品物をポケットに入れて隠してもらいます。

—以下省略—

なお、このやり方は4人、6人、7人の客をステージに上げて行うことができます。

第2章 スリーステップ (THE THREE STEPS)

以下のルーティンはすべて「基本原理」の3段階にわたるやり方を行います。

—以下省略—

【エニーカード・アット・エニーナンバー(ACAAN)】

—以下省略—

「基本原理」の3段階の手順を行います。するとデッキは最終的に—以下省略—

他の 4 人の客に年齢を聞きます。それから中央の客に年齢を聞いてからデッキをカードケースから取り出して、自分の歳の数だけデッキのトップから 1 枚ずつカードを数えてもらい、年齢にあたる枚数目にあるカードを抜き出して観客に見せてもらいます。すると、それが始めに選ばれた客のカードというわけです！

これは年齢に代えて、その客の名前を使っても良いでしょう。客の名前の文字数に相当する枚数目に選ばれたカードをコントロールするのです。例えば、客の名前が PHILIP であれば、客のカードをトップから 6 枚目にコントロールすることになります。

【ブックテスト(BOOK TEST)】

—省略—

「基本原理」を使って、・・・・・・・・・・—以下省略—

本を持たせます。他の 4 人に年齢を聞きます。次に本を持った客に、彼の年齢に相当する頁を開いてもらいます。その時に彼の年齢＝ページ数は声に出して言わないようにしてもらいます。そしてその頁の 1 行目を声に出さずに読んでもらいます。

マジシャンはその文章を読み取ってみせることができます。あるいは、その文章を予言として書いておいても良いでしょう。

またこんなセリフも使えるでしょう：「誰かに本を貸したら、さらにまた貸しされて、とうとう本が帰って来なかったという経験はありませんか？相手は、そんな本は知らないとはげるのです。そんな時に誰が本を持っているかを知る、そして本を取り返す方法があるのです。では今日はそれを試してみましょう。ひょっとすると、もっと面白いこともあるかもしれません」等々です。

・ヴァリエーション (BY MICHEL)

まず客に自分の年齢に相当する頁を開けさせます。次に自分の名前の文字数に等しい数の行を見て読んでもらうのです。例えば、客が 22 歳で、名前が PHILIP であれ

ば、彼は本の 22 頁の 6 行目を見ることになります。—以下省略—

【ウソ発見器(LIE DETECTOR)】

—省略—

「原理」のおかげで、いろいろなケースで誰が品物を「持っていないか」を知ることが出来ます。例えば、「基本原理」の STEP1 では、—以下省略—

ここで客に質問をするのですが、少し面白くするために品物を持っている客には常にウソを言ってもらい、品物を持っていない客には常に本当のことを言ってもらいます。

そしてあたかも「ウソ発見器」を使っているかのように、5 人の客それぞれに品物を持っているかと質問して行きます。

—以下省略—

次に STEP2 を続けますが、さらに観客を混乱させるために、残った客に「嘘つき」と「正直者」の役割を変えても良いと言います。

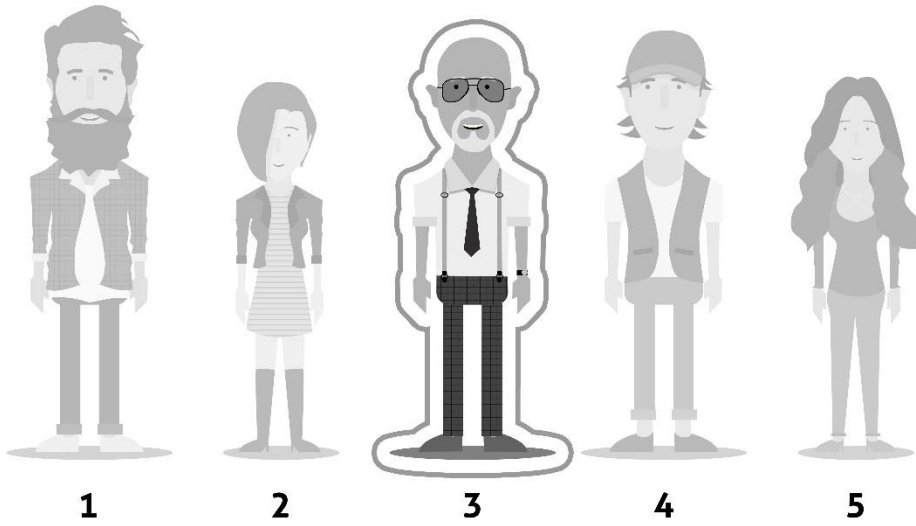
—以下省略—

そして最後に STEP3 に進んで、いくつか質問した後に、誰が品物を持っているかを開示して見せます。

このヴァリエーションは、「基本原理」、「BOOK TEST」、「ANY CARD AT ANY NUMBER」いずれのプレゼンテーションにも応用可能です。

【丸めた紙(A CRUMPLED PAPER BALL)】(BY GERMAN DABAT)

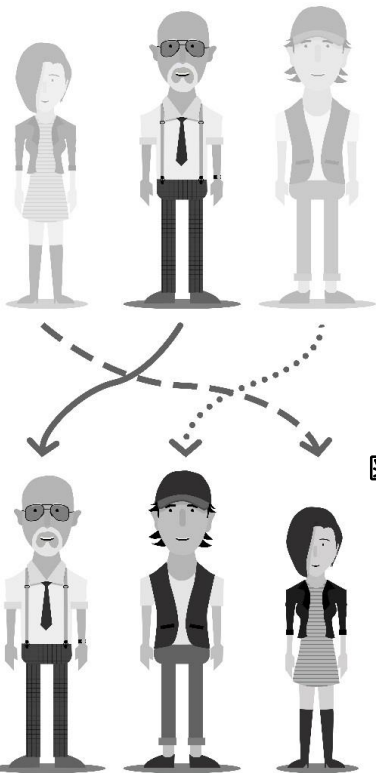
ショーの始まる前に 1 枚の紙に、「この丸めた紙を最後に持つのは・・・」と書きますが、「・・・」にはある客の容姿を書いておきます。その人の容姿が他の人と少し違う人、例えば頭がはげているとか、眼鏡をかけているといった人を選ぶと良いでしょう。その紙を丸めて、品物として使います。



—以下省略—

(補足)

—省略—



第 3 章 最初のステップ (THE FIRST STEP)

以下の全てのルーティンは「基本原理」のSTEP1だけを使っています。

—以下省略—

図6

【エキボク(EQUIVOQUE)】

このアイデアは、MAX MAVEN の「KOROTSUKE」をベースにしています。ここで使う品物は、図7のように客が手に握って隠せるような小さな物とします。



「基本原理」のSTEP1 を行ったら、**—以下省略—**

なお、タイトルの「EQUIVOQUE：エキボク」とは「マジシャンズチョイス」のことです)

【たった一つの質問(ONLY ONE QUESTION)】

「基本原理」のSTEP1 を行ったら、品物を持っている客には本当のことを、持っていない客にはウソを言うよう指示します。いろいろな質問を客にします。それに対する客の答えは

—以下省略—

さらにいくつかの質問をします。マジシャンにはもう誰が品物を持っているか判っているのです、それらしい質問を適当にしておきます。

なお、品物を持っている客の「役割」は「正直者」となります。



・「LIE DETECTOR」ルーティンでは、マジシャンが誰が品物を持っているかを知った後は、客達に「正直者」と「ウソつき」の役割を変えても良いと言うことも出来ます。—以下省略—

・ヴァリエーション

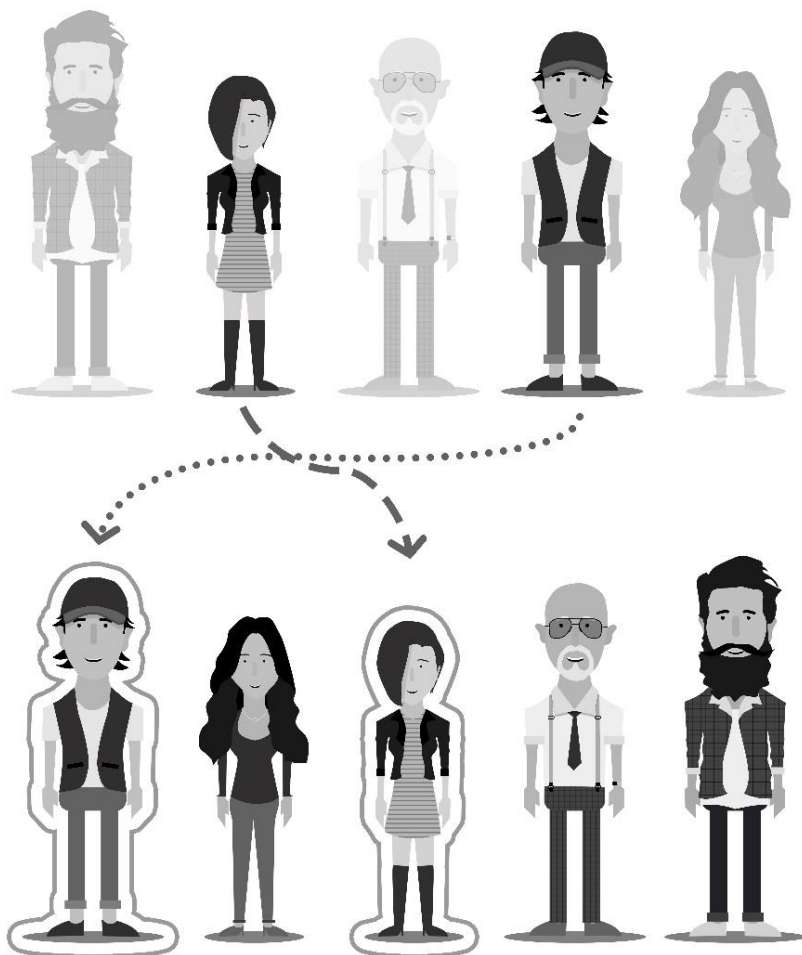
「基本原理」のSTEP1を行ったら、客達に好きな「役割」を選ばせる。それぞれの客に品物を持っているか聞く。この時、—以下省略—

【ダブル・テキーラ(DOUBLE TEQUILA)】

このアイデアはMARK ELDSONの「TEQUILA HUSTLER」をベースにしています。この本にはこのテクニックが詳しく説明されており、またとても面白いルーティンがあるので読まれることを強くお勧めします。

まず客に「正直者」か「ウソつき」か、「自分の役割」を選んでもらいます。選んだ「役割」は最後まで変えません。

「ウソつき」を選んだ客は全ての質問にウソで答えてもらい、「正直者」を選んだ客は全ての質問に本当のことを答えてもらいます。「基本原理」のSTEP1を行った後、客達に立っている場所を入れ替えさせます。—以下省略—



それぞれの客に、品物を持っているかどうか聞きます。

—以下省略—

【思ったカード(THOUGHT OF CARD)】

1人の客に1枚のプレイングカードの数字とスーツ(印)を1枚の紙に書いてもらい、それを観客にも見せてもらいます。済んだら紙を丸めてもらい、「品物」として使います。

まず「基本原理」のSTEP1を行います。「LIE DETECTOR」のやり方を使って、誰が紙玉を持っているかを知ります—以下省略—

そしてメンタリストは最後に誰が紙玉を持っているのか、そして書いてあるカードは何かを開示してみせます。

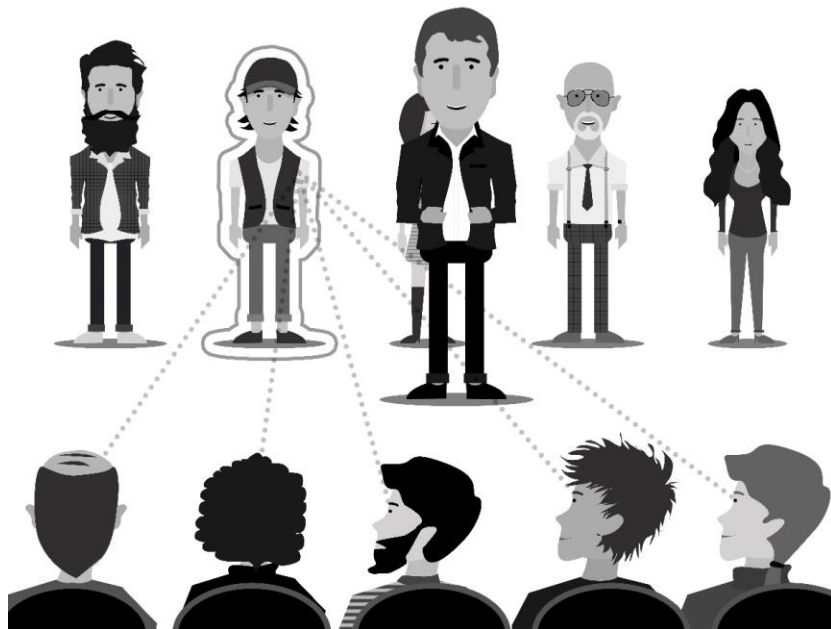
その他のオプションとしては、客にカードを選ばせてデッキの中にひっくり返して入れておくとか、自由に選ばれたカードを4つ折りにするとか、宝くじの番号を書かせるなどのやり方も考えられるでしょう。

・ヴァリエーション (BY MICHEL)

—以下省略—

【二人の合計数(DOUBLE CARD TO NUMBER)】

—以下省略—



第4章 トリプル・テキーラ(TRIPLE TEQUILA)

このアイデアは「ダブル・テキーラ」をベースにしています。ここで面白いのは、「基本原理」のSTEP1を行う必要がないということです。どの客が始めに品物を持っても良いのです

—以下省略—

こうしてメンタリストは、それぞれの客によって選ばれた「役割」と、誰が品物を持っているかが判ります。

(補足)

・このルーティンは3人に代えて5人の客を使っても出来ます。その場合にはまず「基本原理」のSTEP1を行い、「トリプル・テキーラ」を行えば良いです。

—以下省略—

・品物は自由に選ばれたプレイングカードであってもかまいません。それぞれの客の「役割」を知る事で、いくつかの質問をすれば、選ばれたカードが何かを知ることが出来るでしょう(14頁の「ウソ発見器」を参照)。

第5章 二人がウソ、二人が本当 (TWO LIE、TWO TELL THE TRUTH)

【さらに複雑に(EVEN MORE IMBALANCED)】

これはATLAS BROOKINGSの「THE INTREPID ROGUE'S MANUAL OF DECEPTION」にある「IMBALANCED」をベースにしたものです。

4人の客にステージに上がってもらい、その誰か1人に品物を隠してもらいます。次に2人に「ウソつき」の役を、残りの2人に「正直者」の役を演じるように指示します。どの役を演じるかは4人の中の協議で決めてもらいますが、メンタリストにはそれぞれの「役割」が判らないようにしてもらいます。例えば、声を出さずに親指を出して、上に向けた2人が「正直者」で、下に向けた2人が「ウソつき」とする等です（図11）。



ここでメンタリストがそれぞれの客に、品物を持っているかと聞いて行くと、2つの可能性があります。

—以下省略—

・このルーティンを5人の客で行うことも出来ます。3人が同じ「役割」を選び、後の2人が逆の「役割」を選びます。メンタリストがそれぞれの客に「品物を持っているか？」と聞いて行くと、2つのケースが出て来ます。

—以下省略—

【「思ったカード」をさらに複雑に (EVEN MORE IMBALANCED WITH A THOUGHT OF CARD)】

4人の客にステージに上がってもらい、2人には「ウソつき」の役を、あとの2人には「正直者」の役をやってもらいたいと指示します。メンタリストに判らないように、4人で相談して決めてもらいます。

デッキから1枚のカードを自由に選んでもらい、皆で覚えたら4人の誰かのポケットに隠してもらいます。

メンタリストはそれぞれの客に、カードを持っているかを聞いて行きます。

—以下省略—

前のエフェクトで説明したやり方でキークエスションをして、それぞれの客の「役割」と、誰がカードを持っているかを知る事になります。

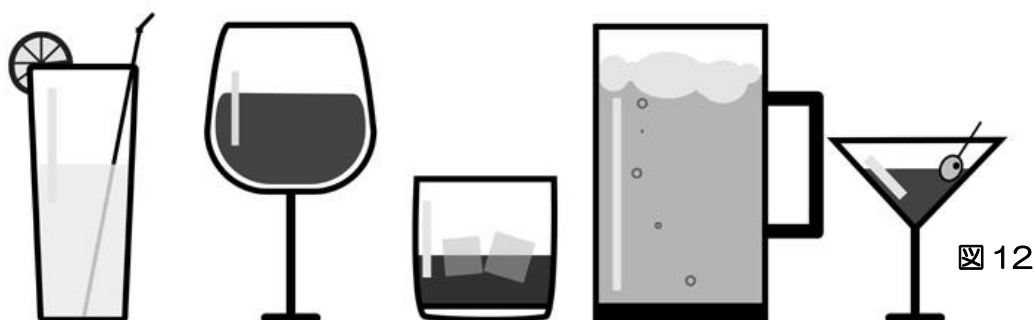
次にメンタリストは、カードのスートと数字を3人の客に尋ねますが、2人が同じ「役割」で1人が逆の役割なので、違う答えの中から「正直者」の答えを覚えるようにします。

最後に、誰がカードを隠しているか、それぞれの客の「役割」そしてカードが何かを開示して見せます。

第6章 MISCELLANY(いろいろなアイデア集)

【5つの飲み物(FIVE DRINKS)】

1 列に並んだ客達の場所を入れ替える代わりに、5つの異なるドリンクの位置を客に入れ替えさせることも出来ます。5つのドリンクを横1列に並べ、その順番を記憶します。ここでは、図12のように、左からレモネード、ワイン、コカ・コーラ、ビール、マティーニとします。



客に、これからメンタリストが後ろ向きになるので、合図をしたらワインをその隣にあるドリンクと入れ替えるように指示します。そしてメンタリストはワイン以外のドリンクをどけて、最後にワインを残してみせると宣言します。

—以下省略—

・ヴァリエーション (BY MICHEL)

他のプレゼンテーションとして、コールドドリンクの中に1つだけホットドリンクを混ぜておくとか、ステージ上には酒を飲まない客を上げる手もあります。後者の場合、ワイン以外のノンアルコール飲料をすべてその客に飲ませて、最後にメンタリストがワインを味わうという流れです。

・ヴァリエーション (BY GERMAN DABAT)

5つの異なるチェスの駒を使います。4つは黒（ルーク、ビショップ、ポーン、キングとします）、1つは白（ナイトとします）です（図13）。



図13

「基本原理」を使って、白い駒の位置を移動させて、最後にどこにあるかを当ててみせます。さらに「5つの飲み物」と同じやり方で、それぞれの駒の位置を当てることも出来ます。

—以下省略—

【ダイス(DIE)】

いくつかのゴブレットやダイスカップを用意し、1個のダイスの行方を当てるというプレゼンテーションも出来ます。

—以下省略—

【腕時計(WRISTWATCH)】

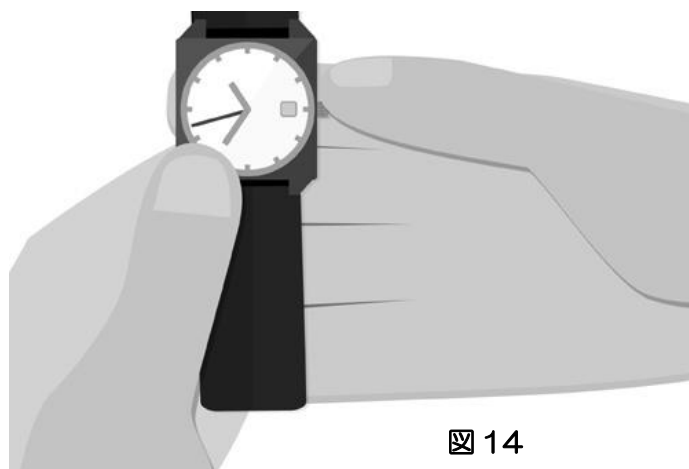
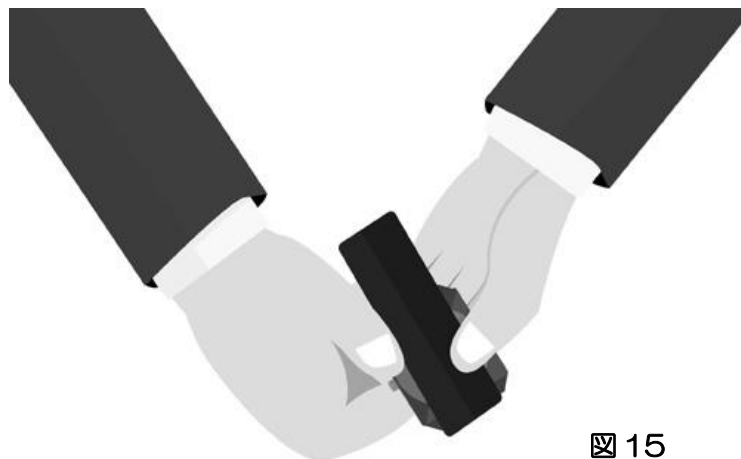


図14

品物はメンタリストの時計、あるいは借りた時計にしますが、ネジを巻くクラウン（龍頭）のあるアナログ時計が良いです。時間を合わせられるようにクラウンを引き出します。クラウンを回して時計の針を

動かして、いろいろな時間に合わせるところを観客に見せます（図 14）。



次に客の 1 人に文字盤
を見ないでクラウンを
回してもらい、好きな
ところでストップして
もらいます。

—以下省略—

図 15

「基本原理」を行います。そして時計を誰が持っているかを当てて見せた後に、時計が何時にセットされているかをも当てて見せます。

—以上—

「ボディ・メンタリズム」 **BODY MENTALISM**

BY JUAN PABLO IBANEZ

Exclusive Japanese Edition

*This Japanese Translation is authorized by JUAN PABLO
IBANEZ.*

この日本語版は、JUAN PABLO より日本語版としての権利を購入して
(有)フェザータッチ MAGIC にて発行するものです。
(2019/11/10)

翻訳： 平賀 義達

編集・発行：(有)フェザータッチ MAGIC

**THIS LIMITED EDITION PRINTED BY
FEATHER TOUCH MAGIC**

日本語版 Copyright @ 2019 (有)フェザータッチ MAGIC

★ 本書は、JUAN PABLO の「BODY MENTALISM」(2019年発行)の日本語版です。本人との契約により特別に日本語版の権利を受け発行するものです。

★ この解説書の全てのコンテンツ(情報・資料・画像等)の著作権は、フェザータッチMAGICが所有します。一部、全部を問わず、無断でのコピーはもちろん、いかなる手段での転記、転載(電子メールを含む)販売等の二次使用は一切禁止します。

ボディ・メンタリズム©2018 FTM: *Feather Touch Magic Inc.*